

森下仁丹独自菌株「*Bifidobacterium longum*JBL05」が 産生する多糖に アレルギー抑制作用を確認！

— 第14回腸内細菌学会(日時:2010年6月17日~18日)

大会長: 浅田雅宣[森下仁丹(株)] 場所: 京都大学百周年時計台記念館一

森下仁丹株式会社(本社: 大阪市中央区/代表取締役社長: 駒村純一)は、長年に渡るビフィズス菌の研究をさらに深めるべく、たゆまぬ努力を続けております。

今回、森下仁丹の独自菌株である *Bifidobacterium longum* JBL05 が産生する多糖に、経口投与によるアレルギー抑制作用が認められましたので、第14回腸内細菌学会(2010年6月17日(木)~18日(金)、京都大学百周年時計台記念館)にて発表しました。また、当学会は、関西(京都)で初めて開催され、大会長を当社のバイオファーマ研究所 所長浅田雅宣が務めました。

【発表の概要】

7週齢雄性 BALB/cマウスの耳介にアレルギー誘発物質(2,4,6-trinitro-1-chlorobenzene, TNCB)を塗布し、アレルギー様皮膚炎を誘発させた。その後、リン酸緩衝液(対照群)、プレドニゾロン(陽性対照群)、*B. longum*JBL05 菌体、*B. longum*JBL05 産生多糖を1日1回、約3週間経口投与したところ、*B. longum*JBL05 菌体、*B. longum*JBL05 産生多糖の投与が、マウスの耳に誘発させたアレルギー様皮膚炎を抑制することが分かり、ビフィズス菌体のみならず、ビフィズス菌の産生物にもアレルギー抑制作用があることを見出しました。

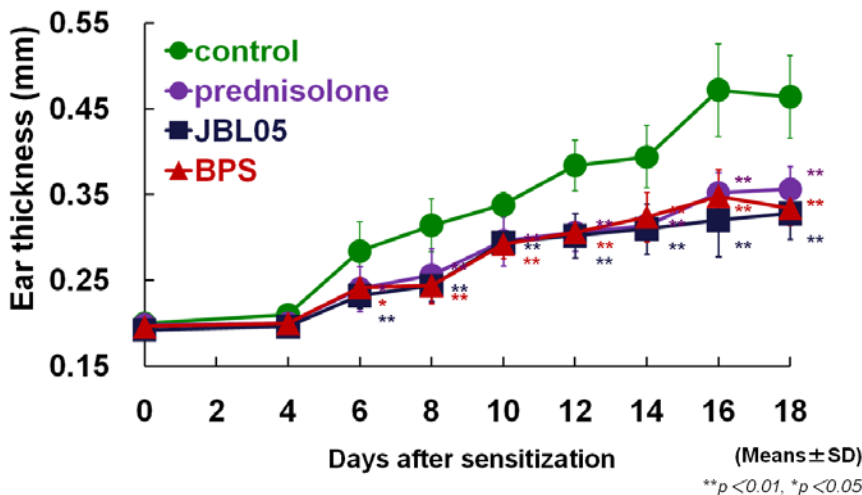


図1. 耳介でのアレルギー様皮膚炎に対する JBL05 および JBL05 が産生する多糖の経口投与効果
マウス耳介にアレルギー誘発物質を塗布することで、耳介の腫れがみられましたが、JBL05 菌体および JBL05 産生多糖を経口投与することで、その腫れが抑えられました。

【本件に関するお問い合わせは】

森下仁丹株式会社 広告・宣伝グループ 磯部・大北 TEL: 06-6761-1134 FAX: 06-6761-8108
共同 PR 株式会社 担当: 長尾・林 TEL: 03-3571-5275 FAX: 03-3574-1005



◆発表演題・発表者

「*Bifidobacterium longum* JBL05 が産生する多糖のアレルギーモデルマウスへの経口投与効果」

発表者: 河野麻実子^{1,2}, 庄條愛子², 小崎敏雄¹, 浅田雅宣¹, 大野徹¹, 北村進一²

(¹ 森下仁丹株式会社 研究開発本部, ² 大阪府立大学 生命環境科学研究科)

◆研究の目的

ヒト腸管より分離された *Bifidobacterium longum* JBL05 は、菌体外多糖を産生するビフィズス菌であり、その多糖については、マウスパイエル板細胞を用いた細胞試験において、免疫調節作用を有することが認められている。本研究では、*B. longum* JBL05 が産生する多糖の経口投与による効果を、アレルギーモデルマウスを用いて明らかにすることを目的とした。

◆結果・考察

- ① *B. longum* JBL05 および *B. longum* JBL05 産生多糖の経口投与がマウス耳介に誘発させたアレルギー様皮膚炎を抑制することが確認されました。
- ② 血漿 IgE 量は、対象群に比べて、減少傾向がみられた。糞便中ビフィズス菌数および IgA 量は、対照群および陽性対照群に比べ、*B. longum* JBL05 菌体投与群および *B. longum* JBL05 産生多糖投与群で増加の傾向が認められた。

【腸内細菌学会】

腸内細菌学会は、財団法人日本ビフィズス菌センターが主催する事業の一環で、年に 1 回、2 日間に渡り開催されています。ビフィズス菌を中心とした腸内細菌と人の健康とのかかわりあいに関する先駆的、独創的な研究の推進を目的としており、今年で第 14 回目を迎えます。メインテーマとして「腸内細菌研究の新たな飛翔—健康増進と疾病予防を目指して—」を掲げています。今回の学会大会長は、森下仁丹(株)バイオファーマ研究所 浅田雅宣 所長が務めます。